

## 発表要旨

### 「インド北東部山岳民族チャケサン・ナガの伝統ポリフォニー：音楽的構造と伝承に着目して」

岡田 恵美（音楽民族学・国立民族学博物館/総合研究大学院大学）

世界には様々な「伝統ポリフォニー」と呼ばれる特定の民族によって伝承されてきた合唱様式の歌唱文化が現存する。本発表の冒頭では、伝統ポリフォニーの世界的研究者ジョルダニアによるその定義と類型について示す。その上で、インド北東部の山岳少数民族チャケサン・ナガの伝統歌唱文化「Li（リ）」に着目し、そのポリフォニックな音楽的構造がコミュニティへの分配・貢献を重視する伝統的な社会構造や、協働作業を必須とする地形やそこでの集団における労働システムと関わり、現在においても集団歌唱が連帯や相互扶助を強固にする社会的役割を担っていることを明らかにする。

### 「アディゲ（チェルケス）人の伝統ポリフォニーについて：その音楽様式と現代における実践の場」

久岡 加枝（音楽学）

北西コーカサスの先住民族のアディゲ人は、言語や音楽や舞踊、民族衣装や料理など、同じコーカサス語族のグルジア（ジョージア）人と共通する要素を持つ。ロシア帝国期の動乱がもとで、アディゲ人の多くはトルコへ逃れ、北西コーカサスに残るのはわずかである。しかしながら、北西コーカサスのアディゲ人の中には、トルコのディアスポラの間ではほとんど失われてしまった英雄叙事詩をはじめとするポリフォニーの歌謡が採録され、1980年代以降にはじまった伝統復興を経て現在も歌い継がれる。本発表ではこうした音楽の様式や内容、若い世代への伝承のあり方について紹介したい。

### 「アイヌ音楽におけるポリフォニー性について」

甲地 利恵（音楽学・北海道博物館アイヌ民族文化研究センター）

アイヌの伝統音楽では声の音楽が主要な位置を占めており、その特徴の一つにポリフォニックな音響を生み出す歌唱形式がある。ポリフォニーの観点から分類すると、アイヌ音楽における合唱には次の4種があるといえる。

- 1) ウコウク = 1つの旋律を、各声部が何拍かの時間差で歌唱
- 2) 複旋律 = 複数の旋律を、各声部が同時に歌唱
- 3) 音頭一同 = 1つの旋律を、2声部が交互に歌唱
- 4) 斉唱 = 1つの旋律を、全員が同時に歌唱

理論上、1) 2) はポリフォニー、3) 4) はモノフォニーとなる。ただし3) 4) においても実際には豊富なヘテロフォニーが生じている。発表ではこうしたアイヌ音楽の多声性について具体例を交えて紹介する。